

福崎かずたろう

第13回 ヒカリものについて考える・その1

車は便利だなあ～、と思う。寒い朝や、大雨の時や、時間が無いとき、そして、夜中。ということで、今回は夜間ドライブと切っても切り放せない、ライト類について考えるのココロだあ～！……………といいつつ、今回は昼間も使うウィンカーの話だったりするが。

さて、読者の皆さんは、自動車にどのくらいライト類が付いているかご存知かな？ ヘッドライト（前照灯）、でしょ。それからウィンカー（方向指示灯）、でしょ。あと、ブレーキライト（尾灯）。まだあるぞ。スモールライト（車幅灯）。ルームライト（室内灯）。小物では助手席のグローボックス内のライトとか、補助室内灯。あと、光るナンバープレートなんかもそうかな。メーター類やラジオなんかも光ってるなあ。う～ん、けっこうヒカリものが多いわけやね。それではこれらのライト類を通して、またウダウダと述べてみたいと思う。

その1 ウィンカーについて

ウィンカーっちゅうのは、車が曲がったり進路を変更するときに、意思表示として出す黄色の点滅するライトのことだな。

さて問題です。ウィンカーはどこに付いているでしょう？

前と後ろに2カ所ずつ、ですか？ブゥ～ですね。正解は、前と後ろと横に2カ所ずつ、です。つまりどこから見ても（まあ上や下は別ですが）、見ている方向へ出されたウィンカーは見てとれる、というわけです。

☆ 設置場所

左右2つのウィンカーの設置場所ですが、これは法令で決められているので、左

右対称です。

場所については、前面と後面のウィンカーは、おおむね似かよった場所（ヘッドライトの横やブレーキライトの下あるいはバンパーに埋め込みなど）に有るわけですが、側面についてはけっこうメーカーによって個性が出ています。

図1はトヨタ車の多くが採用しているタイプです。前部のウィンカーやヘッドライトと一体化になっていますので、部品数が減らせるという利点、そして1カ所にまとめてあれば配線の取り回しがシンプル、つまり安く上がる、のでしょうね。トヨタらしいなあ。しかし、このタイプは、本来のウィンカーとしては機能的ではありません。前部については別に端っこに有っても構わないのです。が、問題は側部のウィンカーです。側部のウィンカーが機能するのは、例えば2車線以上の広い道での進路変更時や右左折時の後方を走るバイクや自転車への意思表示でありましょう。しかし、側部のウィンカーが車の先端に付いていては、見にくい事この上なし、です。特に昼間なんて見えないんじゃないでしょうか。

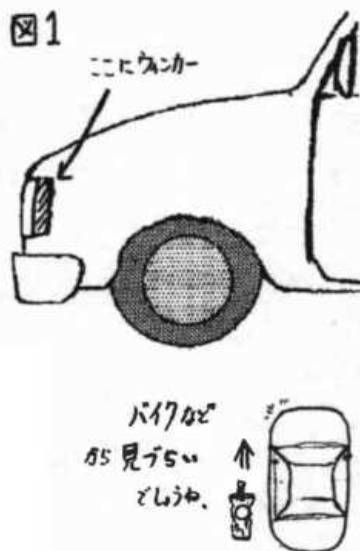


図2は、昔からのポジションです。図1に比べれば後方からの視認性は良いと思います。タイヤハウスが出っ張っていたり（オーバーフェンダー）、丸っこいデザインの車は、このあたりにウィンカーを付けないと、車体そのものが邪魔になって、斜め後ろからは見えないのでしょう。エスクードもここです。

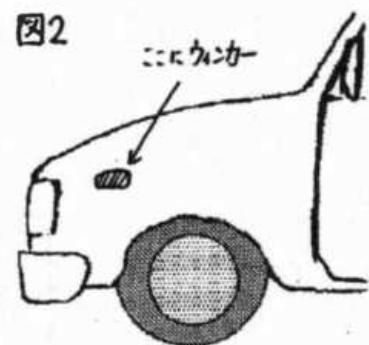
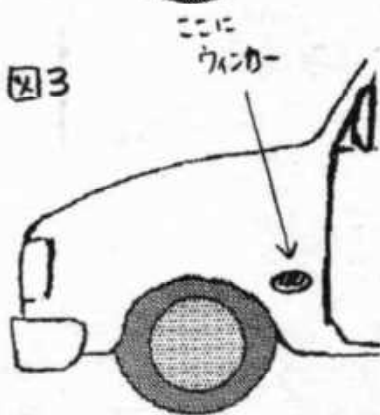


図3は、外車に多いデザインです。国産では、ニッサンやダイハツ、そして最近のホンダなどがこのポジションを採用しているようです。いずれも輸出に力を入れているメーカーのような気がします……（かな？）。

タイヤハウスの後方にウィンカーが有れば、斜め後ろからはかなり見やすくなると思われます。そういう意味でこのポジションを採用するという事は、安全面に気を使っているなあ、という風を感じとれますね。ただ配線



は大変かもしれない。それとデザイン的に、この場所にライト類を付けるというのは難しいでしょうね。スッキリ出来ないというか。それと、あとユーザーからすれば、ワックスを掛けるときにこの位置のウィンカーは邪魔である、とも言えます。そういう意味では、トヨタが図3ポジションを採用しないというのは、実に現実的な選択と言えますなあ。

☆ ウィンカーの使い方

ウィンカーの使い方については、ここで述べるまでのこともないと思う。ハンドルの右手側に付いているレバーを進行方向へ向けて動かせば良いわけだ。

ウィンカーを出すときというのは、

- 常識的には、
 - ・交差点を曲がる時
 - ・進路を変更するとき
- の2点であります。

また、ウィンカーはハザードランプ(非常点滅表示灯)の役割も兼ねているので、

- ・駐車時や駐車するための意思表示

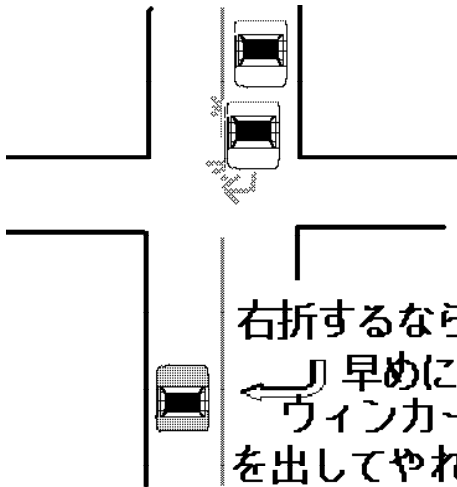
としても使われる。

さらに、高速道路では

- ・ウィンカーが特別なメッセージを意味する
- こともある。

それでは、これらについて見ていくことにしよう。

まず、常識的な使い方として、右左折のための意思表示としての使い方がある。これは教習所の教科書などで読まれた方も多と思うので、とりたてて書くこともないのだが、ひとつだけ。「交差点の前方××mで方向指示器を出しなさい」などというのは、あくまで目安である、と言っておこう。実際の道路というものは、場所によって状況によって変化するものなのである。2つと同じ交差点というものは有り得ないし、対向車や後続車や歩行者によって、自車を取りまく状況は流動しているのである。よって杓子定規に何mという言い方はまったく目安にしかないし、個々の状況に応じた信号の出し方など書いていたら、今月号の OH!WOO!! も100ページを越えてしまうだろうから、ここでは書かない。



ただ、自分で車を運転してみると、「ばっかやろー！交差点の直前になってから信号を出すんじゃねえ！」とか、「さっきから信号出してるけど、いったいどこで曲がるんだよ！」とか、「おっ、素晴らしいタイミングで信号を出したな」とか、色々と周囲の車に対して思うことがあるだろう。人の振り見て……というが、そこで自分の運転は周囲に対してどうであろうかと、考えてみれば良いのではないだろうか。なかなか難しいかもしれないけどね。

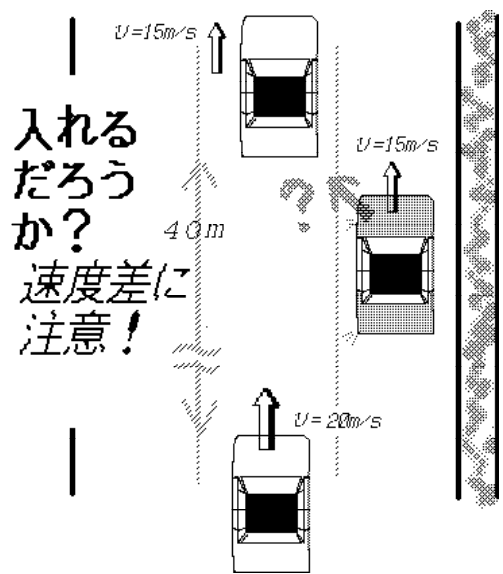
進路変更については、2車線以上の道路での車線変更と、路側への停車または路側からの発車、というパターンが考えられる。

これに関しては、ただひとつ、「後方に注意！」それだけだ。進路変更とは、ま横に曲がることではない。前方に進みつつ、少しずつ横へ移動する事なのだ。だから、車線変更が完了するまでには、けっこう時間が必要なのである。

当たり前だが、他車のいる場所へ進路変更をしようとする者はいない。だが、自車が進路変更した場所へ他車が突っ込んでくる事は十分に有り得ることだ。というのも、自車と他車の間の相対速度が0であるという保証はどこにもないからである（とくに路側からの発車時において）。この事に気が付かないと「はいれると思ったんだけど、後ろからの車が意外と速くてさあ」などという、間抜けな言い訳をする羽目になるわけだ。

よって進路変更を行うときは、後続車を十分観察して、車線変更を行うのに十分な間隔があるかどうかを、速度の差と照らし合わせて判断しなくてはならないのだ。

中環などを走っていると、右に左に僅かな間隙をついて、さながら こまねずみ（高麗鼠と書くのか）のように車線変更するバカがいるが、奴らはろくに後方を見ていない。それでも頻繁に事故が起こらないのは、周囲の車が速度を変えないからだ。つまりバカは周囲の車が相対速度0という前提で、何秒か前に見た周囲の状況をトレースしているのだ。恐ろしいなあ。



ハザード（ウィンカーを左右とも点滅させる事）としての使い方は、本来は緊急停車などの非常灯であったのだろうが、現在はどちらかというと、昼間の駐車灯として使われる事の方が多い。タクシーなどが停車するとき、パッとハザードをつけて止まるところなどを見られた方も多いでしょう。あと、荷おろしをする車などが路側に沿ってズラッとハザードを点滅させている光景もよく見ますね。しかし、あれは、そこを走る車からは、右のウィンカーの点滅しか見えないので（左は他の車に隠れている）、止まっているのか、本線に出てくるつもりなのか分かりかねないので、ちょっと迷惑ですが。それから地下駐車場などの薄暗いところへ車を入れるときは、ハザードを点滅させると、その光が壁面や他車に反射して距離がつかめるので、便利ですな。

高速道路では進路変更以外には、ウィンカーは使われませんので、メッセージ代わりに使っても支障はないのでしょうか、ウィンカーは独特の使い方をします。

スムーズに流れていた高速が、事故や工事で急に渋滞。こういう時、渋滞の最後尾の車はハザードを点滅させます。あとからやってくる自動車に追突されないための、いわば自衛策ですが、逆に渋滞のメッセージとも言うことができます。

後続車のために進路をあけた場合、追い抜いて行った後続車は右のウィンカーを出します。これはおそらく「どもども」という意味でありましょう。

逆に登り坂で遅い車などは左に寄り、左のウィンカーを短く出します。これは「抜きなさいよ」という意味でしょう。これは一般道でもやりますね。

高速なら渋滞
一般道なら単なる停車
かも知れない。

